

NPO法人JOY Kids' Theater 設立趣旨書

近年、日本では子どもたちのコミュニケーション力や表現力、集中力などの低下による学級崩壊が問題となっています。その原因の一つとして、一人っ子家庭の増加や、携帯電話・ポータブルゲーム機の普及による子ども同士の活動（遊び）の減少、人間関係の希薄化などが挙げられます。これは、日本の「モノの飽和社会」によってもたらされた弊害の一つといえます。そして、幼少期に育むべき能力の発達を妨げることで、子ども時代だけでなく、大人になった際、様々な問題を引き起こす危険性をはらんでいます。

そこで私たちは、子どもたちが互いに協力し合って、ひとつのミュージカル作品を創り上げる体験を通し、人間関係の形成や表現力、忍耐力、責任感などを身につけられる場を提供し、一人一人に適切な成長を促すことで、この大きな社会問題を解決したいという目的の下、この法人を設立しようと考えました。

子どもたちだけで創りあげるミュージカルである『キッズミュージカル』は、現在の日本ではあまり馴染みがありません。また、「演劇」というと、特定の人がやるもの、というイメージを持たれがちです。しかし、海外においては、とりわけミュージカルは、教育価値が大いにありと高く評価されており、教育現場や習い事など、様々な場所で、多くの子どもたちを対象に、盛んに取り組まれています。

身体表現(ダンス)・歌唱・演技の総合芸術とされるミュージカル。私たちは、このミュージカルには、教育的メリットがたくさんあると考えています。ひとつのミュージカル作品を創りあげていく過程は、まず自分自身と向き合うことから始まります。自分とは異なる他者の意見にも耳を傾けながら、自分の言葉で、自分なりの表現で、形にする事。これが、コミュニケーションの第一歩となり、他者との関わりの中で、徐々に“自分”を形成していきます。ミュージカルを通して自分と向き合うことで、自分を理解し、コントロールする力が生まれ、集中力や責任感、創造力の養成にもつながります。

また、年齢や環境が異なるたくさんの仲間と同じ目標に向かう事で、思いやりの気持ちが生まれ、上下関係が身に付き、仲間との絆が生まれます。そして何より、全員がひとつの目標に向かい、様々な課題を乗り越えて立った舞台の後には、想像以上の達成感や満足が得られ、大きな「自信」へと繋がります。

子どもの成長支援の一環であるミュージカル教育＝「教育を第一義としたミュージカルづくり」という取り組みは、日本においてはまだ前例の少ない取り組みですが、上記の点から、日本でも取り組むべきであると考えています。

私たちは、ミュージカルづくりに参加した子どもだけでなく、観客である同世代の子どもたちにも、教育的意義のある活動を行っていきます。子どもは子ども同士、お互いの姿を見て、様々なことを学びます。同世代の子どもたちが、お芝居の中で、様々な難題にぶつかり、乗り越えていく姿を目にする体験は、大人に言葉だけで言い聞かせられるより、はるかに大きな影響を子どもに与えます。地域各所での上演の他、小中学校での公演活動も行い、観客となった子どもたちの学校生活が、より良いものになることを目指します。

参加する子ども、観る子ども、キッズミュージカルに関わる全ての子どもたちにとって、この体験が、未来に向かって輝く第一歩となることを願っています。

平成23年11月23日

設立代表者 夏海 清加